

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 大分豊府中学校		
学校教育目標	創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って、国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成				
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)	
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	〇的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・全教職員が一体となって主体的に教育活動に取り組んでいる。 ・第1回評価での指摘事項に対して真摯に改善点を検討している。 ・重点目標を構造的に整理し、生徒の主体性と社会性を育むことで、課題探究力の育成を図ろうと取り組んでいる。 ・達成目標の客観的数値については抽象的表現が散見されるので、より具体的な指標への改善が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性及び社会性といった非認知能力を測るために、客観的指標についての開発を継続する。 	
	P D C A サイクル	<ul style="list-style-type: none"> 〇重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 〇取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 〇予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・管理職・分掌主任を中心に、柔軟かつ迅速に対応することができる組織的な運営体制が整備されている。 ・アンケート等を用いて、厳密な現状分析を行っている。 ・アンケートなどの分析結果をどのように活用して、改善につなげるのかについて今後具体的に検討してほしい。 ・アンケートの質問項目を、より客観的に判断できるように具体的表現に改善する必要がある。 ・アンケートの質問項目を、具体的な下位項目を作成しながら、細分化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象のアンケートの質問項目について、対象が中学生であることを踏まえ、より具体的で平易な表現のものに改善する。 ・「達成された姿」の明確なイメージを職員間で共有する。 	
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> 〇「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・大分花園中学校(休日特別講座)をはじめ、大学や企業と連携した講座を数多く開催している。 ・外部講師を積極的に活用した教育活動を展開している。 ・中高一貫校の強みを活かし、高校サポーター制度や高校授業見学会、チャレンジラーNEOを実施している。 ・保護者の満足度や要望を把握する取組、保護者との組織的な協力体制の確立について検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、大学や企業に協力をお願いし、大分花園中学校(休日特別講座)や未来navigation(総合的な学習の時間)の更なる充実を図る。 ・大分花園中学校や未来navigationの企画について、保護者の方にも参加していただける工夫を検討する。 	
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 〇授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 〇総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 〇生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・生徒が授業中に考え、発言するなど、主体的で対話的な学びが実現されている。 ・応用・発展問題などで身近な問題等におきかえて学習内容を振り返る時間が設定されている。 ・学校設定科目の「コミュニケーション」「ファンデーション」が国語・英語と連携し、深い学びの実現に寄与している。 ・ミラナビ(総合的な探究の時間)を通して、自ら課題を発見し、調べ、発表する探究的な学びが定着している。 ・生徒は学習意欲が高く、家庭学習習慣も定着している。 ・中高合同の教科会議や授業改善研修等を継続し、教員間の指導力格差を縮小させ、授業の質を高めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、中高合同で授業改善に取り組む。また、探究的な学びについての開発、研究を行う。 	
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> 〇計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 〇いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・計画的に担任・副担任による面談を実施し、生徒の要望・問題を早期に把握しようと努めている。 ・いじめ・不登校問題に関して、スクールカウンセラー/ソーシャルワーカーと連携し、組織的な取組を実施している。 ・「のえる」(校内教育支援ルーム)の運用を開始し、不登校生徒が教室復帰を目指す取組を実施している。 ・不登校防止対策として、保護者とより一層連携し、協力する体制の確立が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの講演会の実施や保護者授業参観日の設定を継続して行うことで、保護者との協力体制の確立の端緒とする。 	
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 〇学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・生徒アンケートで「安心して学校生活を送れている」との回答が95%を超え、各取り組みが奏功している。 ・近隣の危険な交差点に対する安全対策の検討が望まれる。 ・県内各地から生徒が通学しているという実情を踏まえ、詳細かつ実践的な防災マニュアルの改善が必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、職員研修の機会を確保し、情報のアップデートを行う。 ・その上で、市外からの遠距離通学生がいることを踏まえ、防災マニュアルの不断の改善を行う。 	
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務実態改善計画を作成し、働き方改革に積極的に取り組んでいる。 ・部活動の地域クラブへの移行という先進的な取組を実施している。 ・教員が兼業で行っている地域クラブでの活動が過剰な負担とならないように、管理・改善の方法を模索してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域展開の実現に向け、明らかになった課題の解決に向けて協議を重ねていく。 ・地域クラブの人材確保に向けて、大学生への働きかけなど、学校としてできることを模索していく。 	
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> 〇中高一貫教育の推進について 〇スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高の生徒交流イベント(高校生サポーター、中高パネルディスカッション、高校授業見学会等)を実施している。 ・中高の教員が協力・連携して教科主任会議・授業研究会・授業改善研修等を実施している。 ・中高一貫校の強みをより一層活かすために、日常的な生徒交流の機会を継続して検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高交流行事を端緒として、中高共用施設などの場などで日常的に高校生と交流できるような主体性の獲得を目指す。 	
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は非常に素直で、学習意欲も高い。 ・主体的な学び・対話的な学び・深い学びを実現する授業が多く展開されている。 ・教員も熱心で、生徒の主体性を尊重しながら、積極的に生徒の学習・生活指導を行っている。 ・中高一貫教育の強みを活かしたキャリア教育、学習指導についてさらなる充実を図るよう今後も努めてほしい。 				
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像の中で掲げた資質・能力、「主体性」、「探究力」、「社会性」について、構造的に整理することで、中高6年間のうち特に中学校段階で育成すべき資質・能力について検討を重ねた。次年度は、この検討を活かした教育活動を展開していく。 ・ご指摘いただいた課題への改善策を検討する中で、本校生徒を客観視することで、その長所を再認識できた。次年度は、さらに長所を伸ばす取組について工夫を行う。 ・特に伸び行く可能性をもっているのが、本校の生徒会活動である。生徒会活動は、「生徒集団の学校生活への関心を高め、課題を設定し、情報を収集・分析・整理し、協働しながら解決策を探り、見通しを持って粘り強く呼びかけ、専門委員会で振り返り、次につなげる活動」を行っており、まさに主体的な学びの過程と同一の過程をもつ。「主体性」、「社会性」、「課題探究力」及び進学力を内包するその大きな価値を再認識し、本校の教育活動の主役である生徒たちがより主体的に学校づくりに携わっていく新しい文化の創造を目指す。 				